

翻訳品質評価方法に関する 業界アンケート

結果報告

翻訳品質評価ガイドライン検討会

一般社団法人 日本翻訳連盟

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-9-2 宝国ビル 7F

JTF 翻訳品質評価方法に関する業界アンケート

「JTF 翻訳品質評価方法に関する業界アンケート」は、日本翻訳連盟が 2016 年 7 月に国内の翻訳会社と翻訳発注会社を対象に実施した、翻訳品質の評価方法に関する調査です。以下にその概要と結果を報告します。

アンケートの自由記述欄への回答については、重複する記述を整理するなどの編集を適宜行っています。なお、アンケート回答者には全データを開示しました。

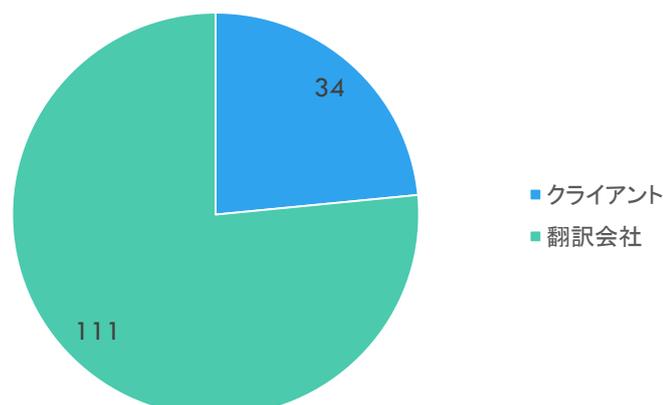
本報告書については、日本翻訳連盟 (info@jtf.jp) 宛にお問い合わせください。

アンケート調査の概要

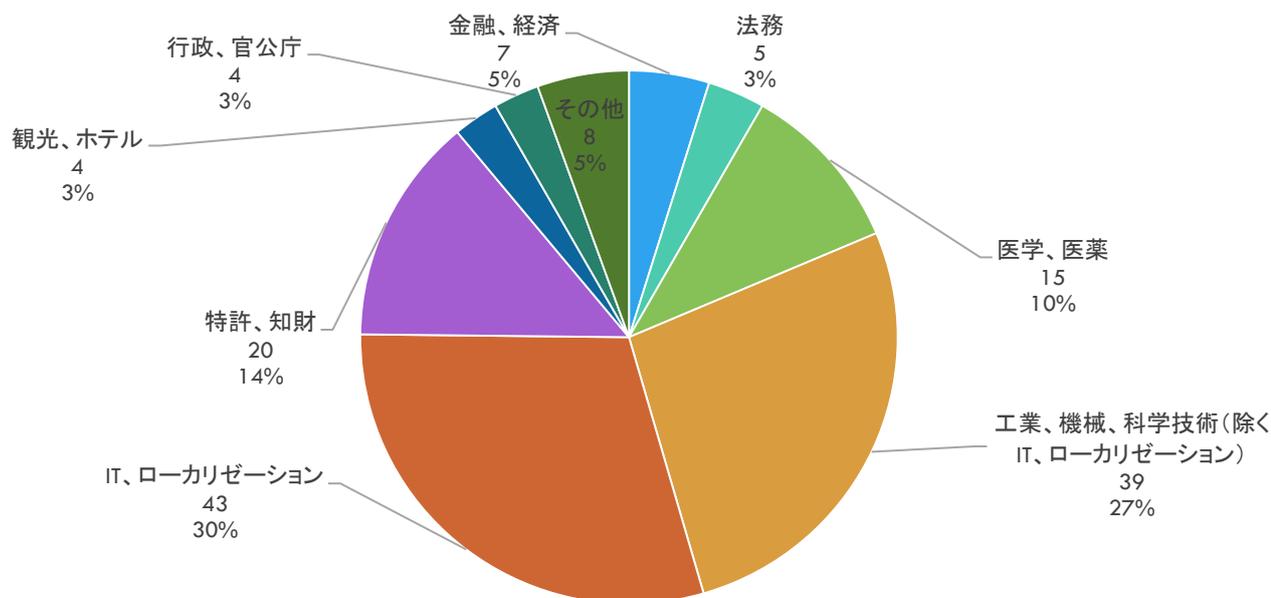
実施者	日本翻訳連盟 標準スタイルガイド検討委員会 翻訳品質評価ガイドライン検討会 田中千鶴香(JTF 専務理事)、東尚子(個人翻訳者)、河野弘毅(PostEdit.Tokyo)、高野敬一(株ヒューマンサイエンス)、高橋聡(JTF 理事)、田嶋奈々(株翻訳センター)、建部優子(株十印)、辻元正明(株クロスランゲージ)、西野竜太郎((同)グローバルイノベーションデザイン研究所)、吉川未希子(株ヒューマンサイエンス)
実施期間	2016 年 7 月 1 日～7 月 27 日
目的	国内の翻訳会社と翻訳発注会社における、翻訳成果物の品質に対する意識とその評価方法について実態を把握する
対象	国内の翻訳会社と翻訳発注会社
方法	Web アンケート
有効回答数	145 件

結果報告

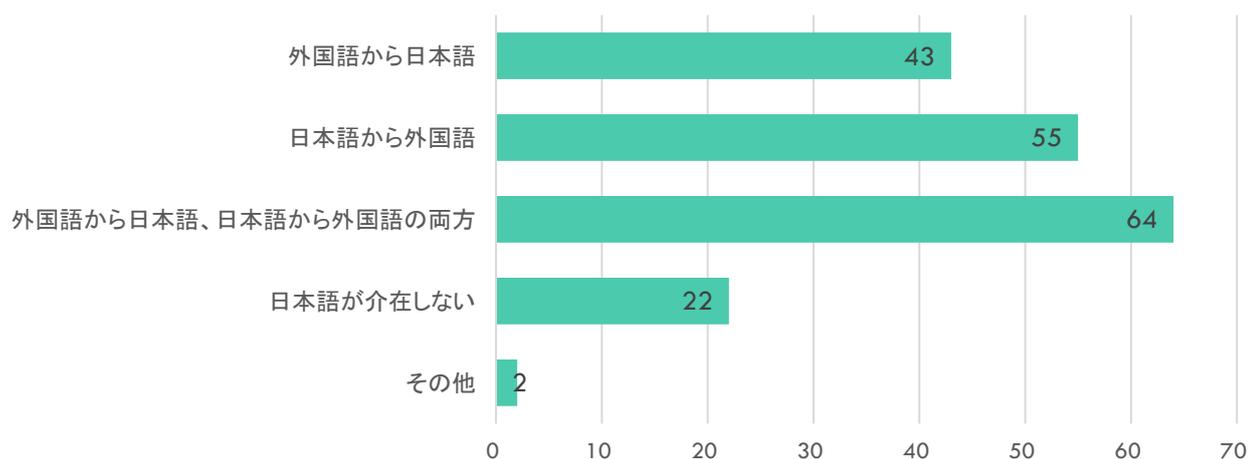
1. 御社は翻訳会社側ですか、クライアント側ですか？



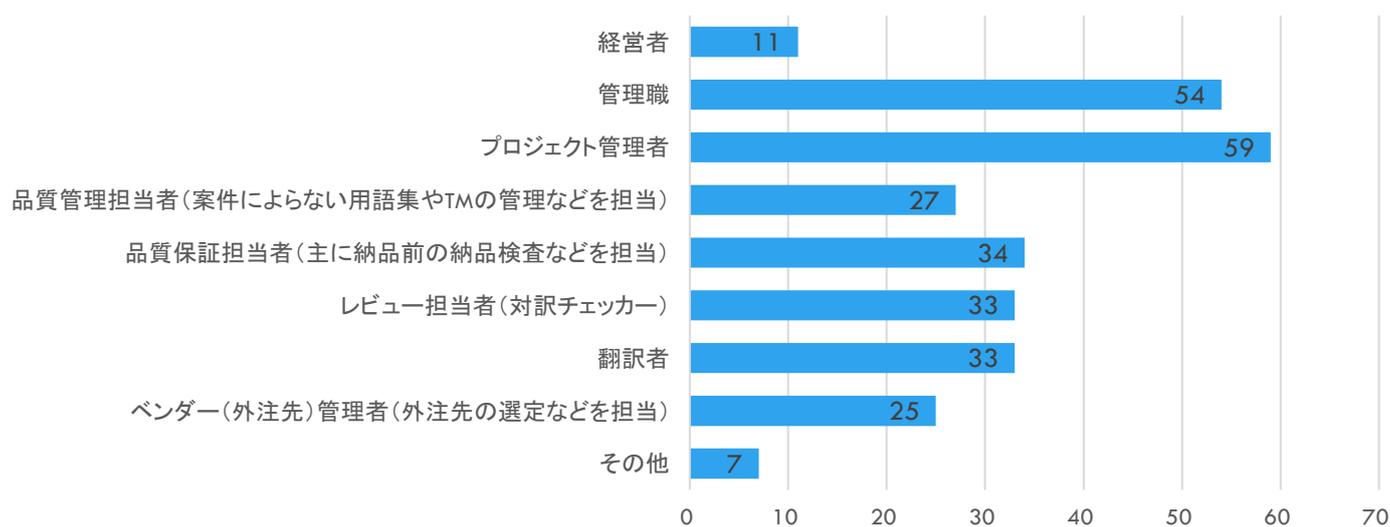
2. 回答者が主に担当している翻訳分野を教えてください。



3. 回答者が主に担当している言語方向を教えてください(複数選択可)。

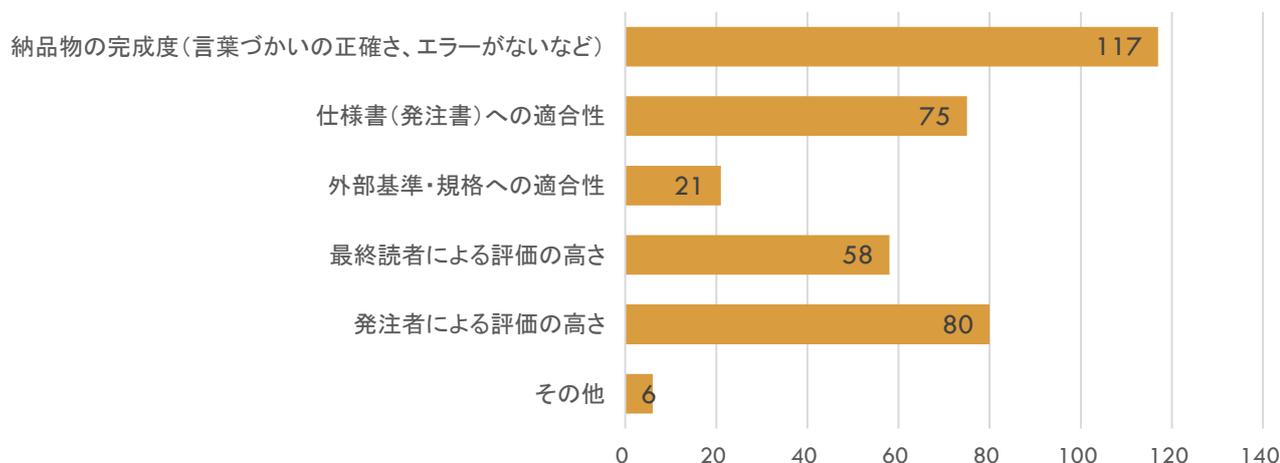


4. 回答者の役職(職務)を教えてください(複数選択可)。



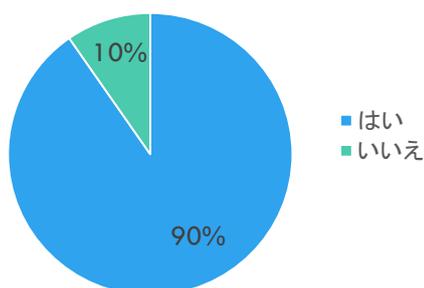
◆品質に関する定義

5. 御社では「翻訳品質」とは何であるとしていますか。近いものを選んでください(複数選択可)。

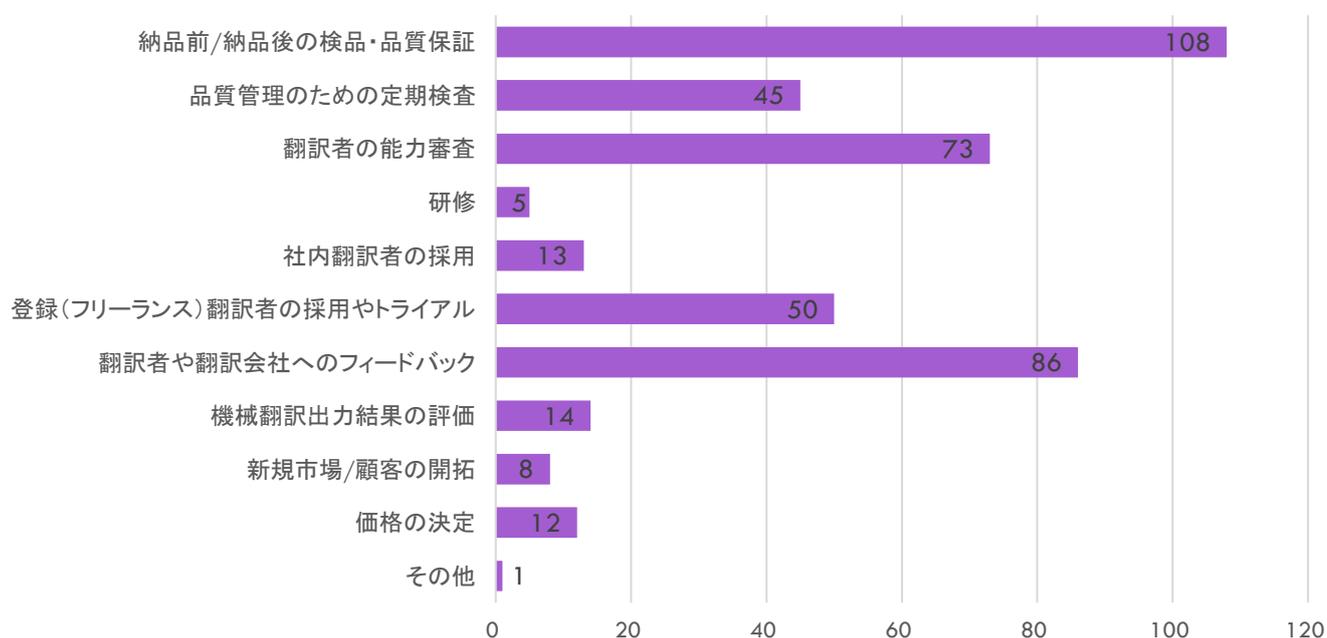


◆品質評価の目的

6. 訳文の品質評価をしていますか。

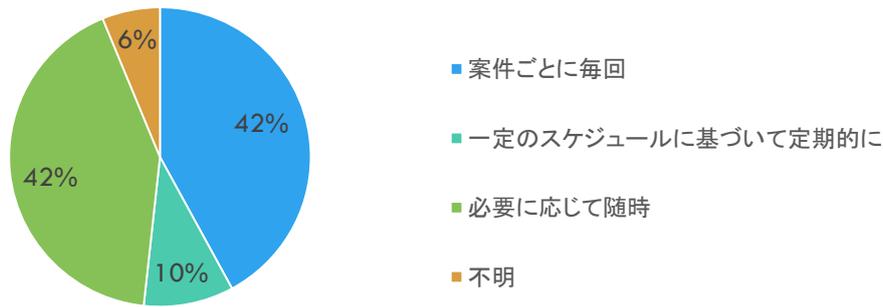


7. 質問6で「はい」の場合、何の目的でしていますか(複数選択可)。



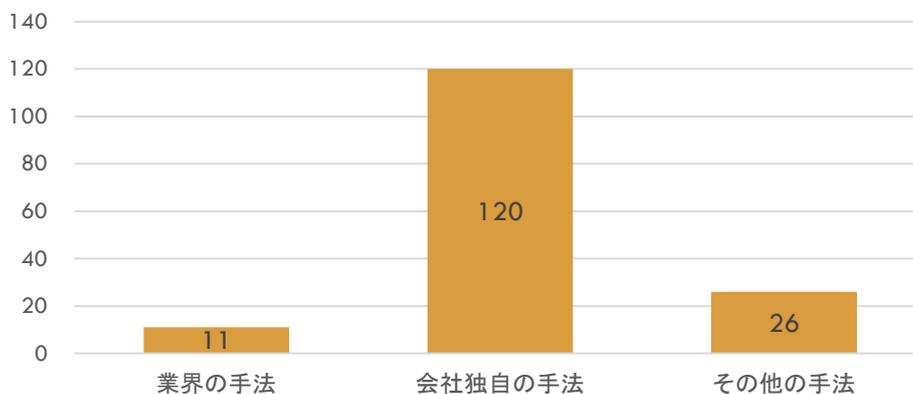
◆品質評価の頻度

8. どのぐらいの頻度で品質評価をしていますか。

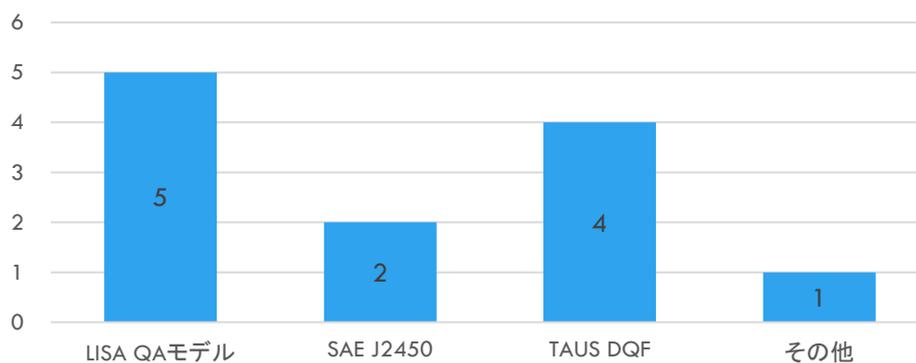


◆品質評価の方法

9. どのような方法で翻訳の品質を評価していますか(複数選択可)。



10. 質問9で「業界の手法」の場合、何を使っていますか(複数選択可)。



11. 質問9で「会社独自の手法」または「その他の手法」の場合、差し支えない範囲で内容を記入してください。

<人員による評価>

- ・ 目視
- ・ 英語(原文)との比較
- ・ 自社で作成している用語集やスタイルガイドに基づいて、チェック

- ・ クライアントと合意した用語集などとの整合性を確認
- ・ チェッカーの裁量による。
- ・ 個人のスキルによる
- ・ ターゲット言語が母語の翻訳者による総合的評価
- ・ レビューア本人によるコメント
- ・ 自社社員であるネイティブスピーカーによる確認
- ・ ネイティブチェック
- ・ 第三者にチェックを依頼し、総合的に評価
- ・ 訳文の流し読み、翻訳者コメント部分の詳細チェック、用語チェック等
- ・ 訳文をチェックして気付いた点をまとめ、ネイティブチェックに出した結果を訳者にフィードバック
- ・ レビューアの主観を基にして定性的に評価
- ・ A(満足)～D(不満)でチェック者の個人感覚で採点しているが、複数案件の評価の平均値で評価
- ・ 社内校閲者による原稿と訳文の双方からのダブルチェック。訳文の正確さや翻訳文章の言葉使いを精査して評価
- ・ 第三者によるクロスチェック、ネイティブチェック(日英翻訳で日本人翻訳者の場合)
- ・ 最終読者と同じ視点での訳文の素読み

<エラーベースの項目別評価>

- ・ 未翻訳語の数や傾向を集計
- ・ エラーカテゴリにあわせて、翻訳エラーの程度とユーザーへの影響度を数値化
- ・ LISA をベースに独自で作成した評価法および、翻訳会社が独自開発し提供してくれた評価法
- ・ LISA モデルのカテゴリ別エラーの割合、およびコミュニケーション等を加味した 1～5 の値
- ・ 独自の評価フォームを使用。オンラインとオフラインの両方がある
- ・ クライアント提示または社内独自の評価項目に基づく品質評価を実施
- ・ 会社が定める 5 段階評価
- ・ エラーの内容、数による ABC 評価
- ・ 部門特有の採点基準を用いた品質評価シートにより評価
- ・ 顧客ごとの QA モデル、情報共有プラットフォームなど、包括的に管理するフレームワークと組織体制を設計・構築し、運用・改善
- ・ 誤訳、訳抜け、形式の誤り、ケアレスミス、クライアント規定、流用処理、保留処理、日本語表現というカテゴリ別に評点を付ける

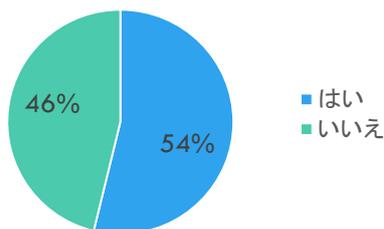
<ツールによる評価>

- ・ QA ツールによるチェック
- ・ マクロ、ツールを複数組み合わせ使用
- ・ 色 de チェックの使い方を社内で検討し、チェック項目を共有して使用

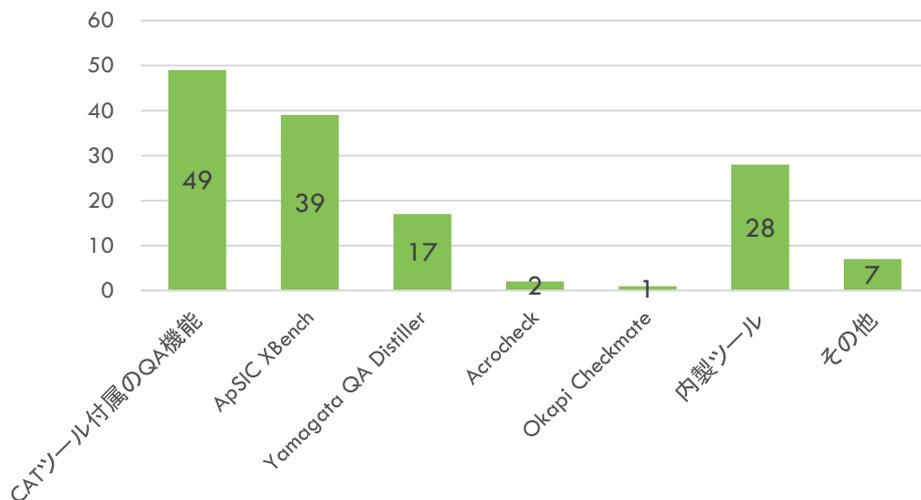
<評価内容に関するコメント、その他>

- ・ 指定された用語及びフォーマットに従っているかどうか
- ・ 適用ガイドラインおよび外部ガイドへの準拠度の確認など
- ・ 誤訳・訳抜け・転記ミスの有無、顧客要望等の順守について評価
- ・ 長年担当しているクライアントさんなどと作成している用語集などを確認しつつ、過去の経緯からみて文面に抜けている情報を補足
- ・ お客様が指定した手法
- ・ クライアントから苦情が来たら、既に納品した翻訳をチェックしてみる
- ・ 特に決まった方法をとっていない

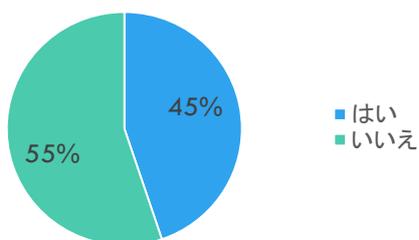
12. QA ツールを使っていますか。



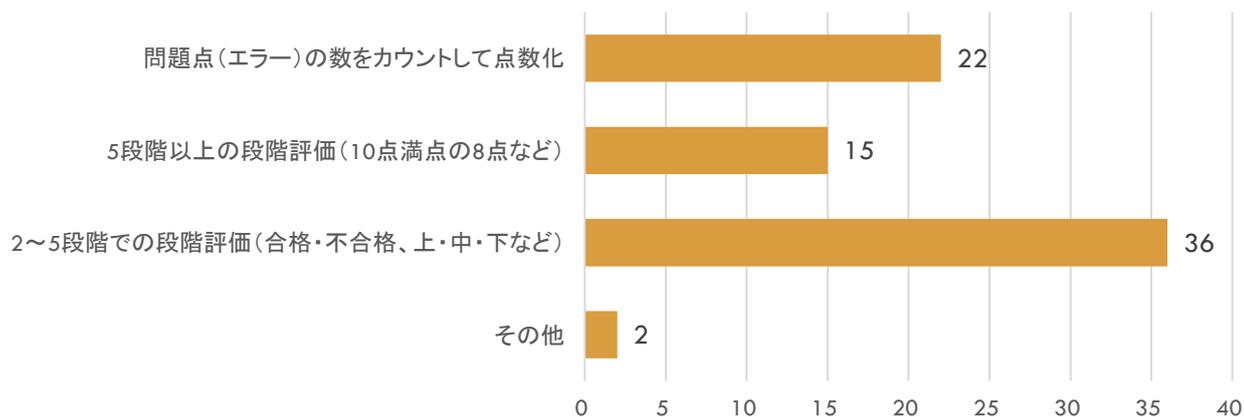
13. 質問 12 で「はい」の場合、何を使っていますか(複数選択可)。



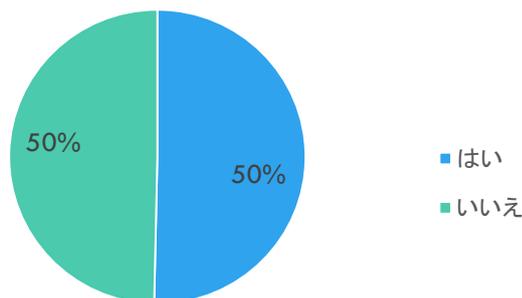
14. 評価結果を数値化していますか。



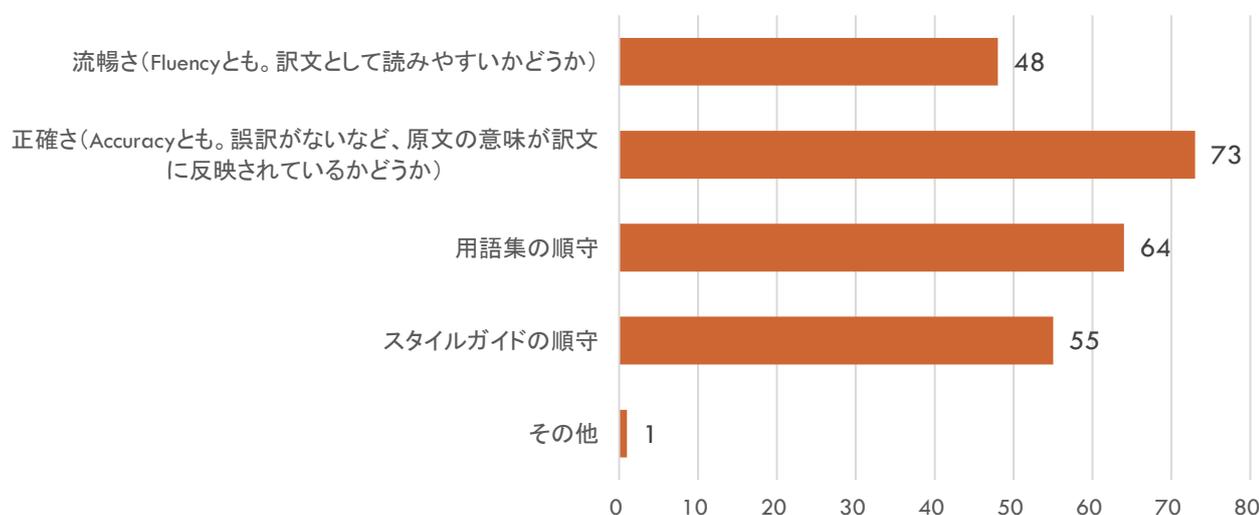
15. 質問 14 で「はい」の場合、どのように数値化していますか(複数選択可)。



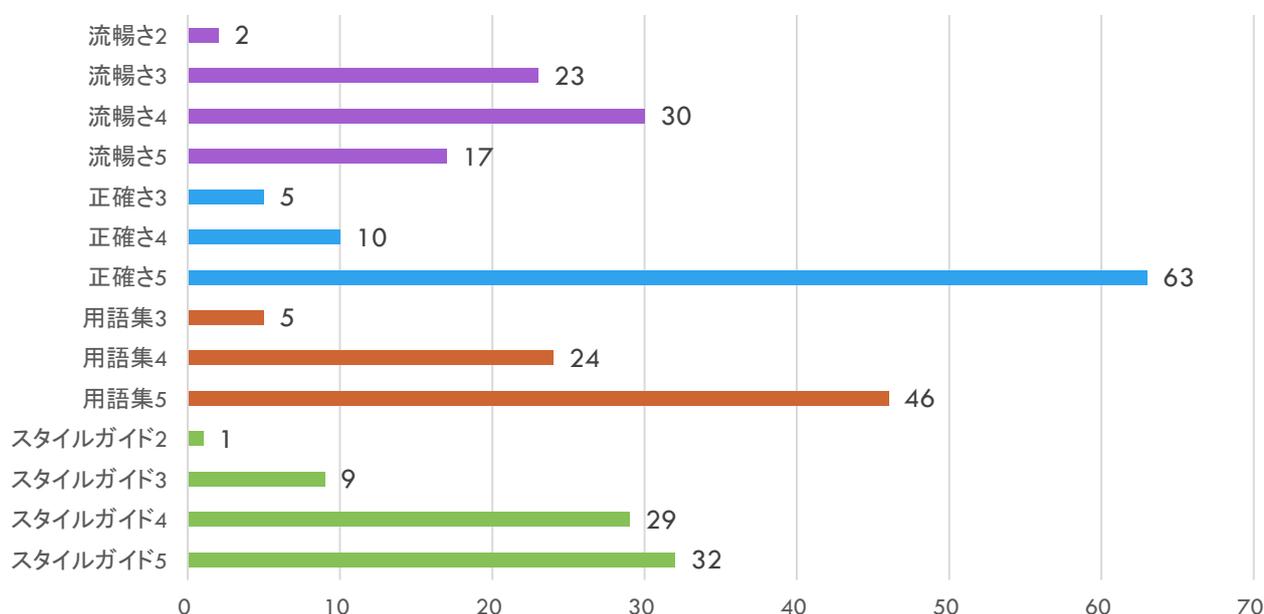
16. 訳文中の問題点(エラー)を分類して、項目ごとに評価をしていますか。



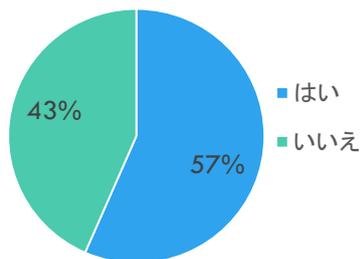
17. 質問 16 で「はい」の場合、回答者が主に担当している分野では何を項目にしていますか(複数選択可)。



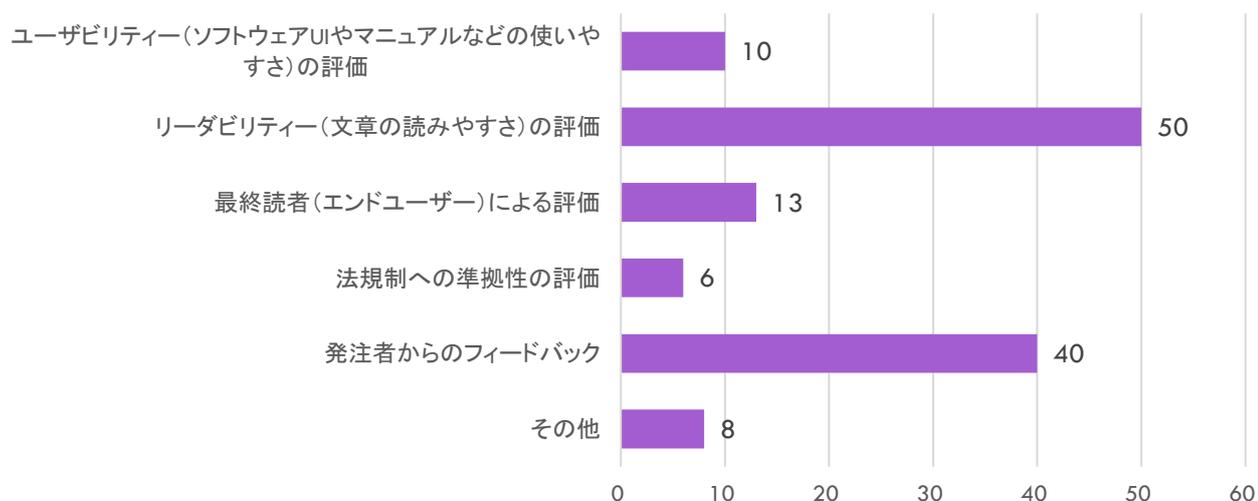
18. 質問 16 で「はい」の場合、どの項目をどの程度重視していますか。それぞれに 5(最も重要)~1(重要ではない)で点数を付けてください。評価を実施していない項目には点数を入れないでください。



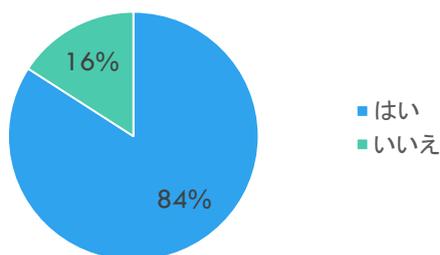
19. 訳文中の問題点(エラー)の数以外を基準にした評価をしていますか。



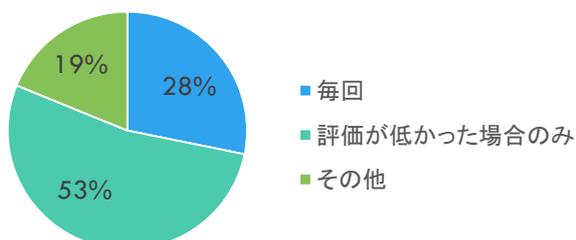
20. 質問 19 で「はい」の場合、どのような方法ですか(複数選択可)。



21. 評価結果を翻訳会社(翻訳者)にフィードバックしていますか。

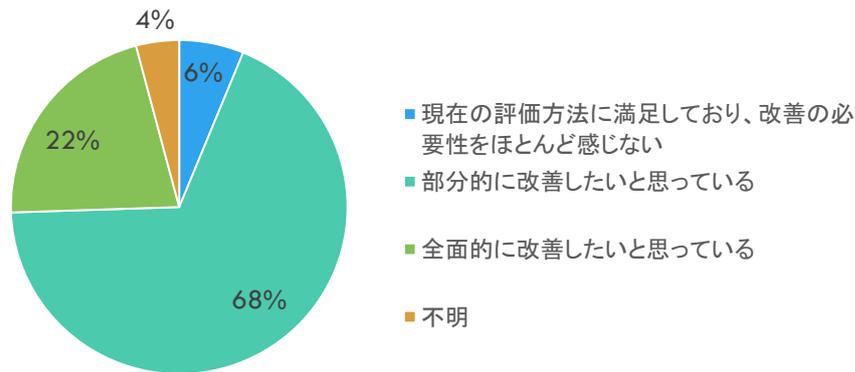


22. 質問 21 で「はい」の場合、どれぐらいの頻度でフィードバックしますか。

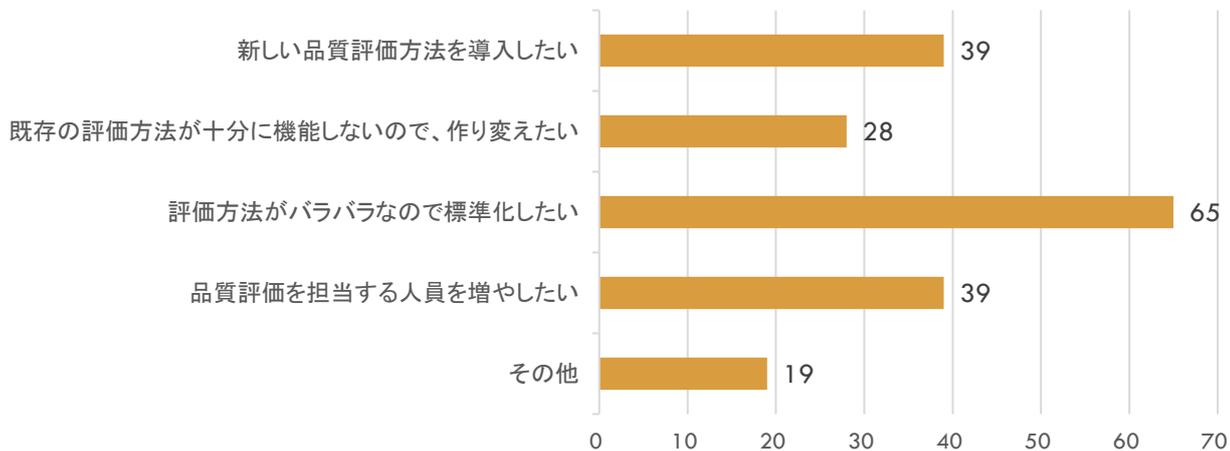


◆品質評価方法の改善

23. 現在の品質評価方法を改善する必要性を感じていますか。

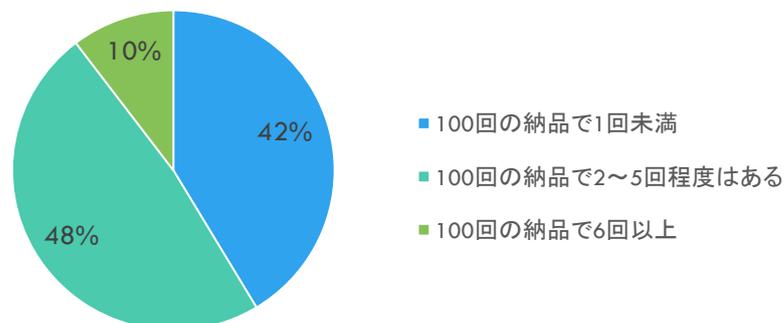


24. 品質評価方法を部分的または全面的に改善したい場合、どのように改善したいと思っていますか。(複数選択可)



◆品質に関するトラブル経験

25. クライアントと翻訳会社との間で、納品物の品質を巡るトラブルやクレームはありますか。



26. トラブルやクレームがある場合、どのようなものですか。差し支えない範囲でお答えください。

<成果物の瑕疵に起因するトラブルやクレーム>

- ・ 全体的な品質
- ・ 仕様違反
- ・ 修正案の提示
- ・ 誤訳、訳抜け、訳語ゆれ、数字記号の転記ミス、原文残り、原文の理解不足
- ・ こなれていない訳文、リーダビリティ、読みやすさがクライアントの期待値以下、流暢さの欠如
- ・ リサーチ不足
- ・ 用語選択、用語の不統一、指定用語の未使用
- ・ 編集上のエラー
- ・ フォーマットが守られていない
- ・ 期待以下の品質の納品の場合がある
- ・ 発明内容に適した対訳となっていない。日本語として不自然な箇所がある、等(英日、特許翻訳)
- ・ 文章として成り立たない原文を、なんとか「翻訳」の範囲内で仕上げた(作文ではなく)ケースで、訳文だけを見たクライアントより「読みにくい・頭にはいらぬ」とのコメントあり
- ・ LQI の点数が低い
- ・ 最終成果物としてのレイアウト/コーディング上の問題

<作業方法に起因するトラブルやクレーム>

- ・ データ処理に起因するもの(翻訳対象範囲を見誤っていた)
- ・ CAT ツールを使用して Fuzzy Match のまま訳文を確定させてしまった
- ・ 納期の勘違い、提供した資料を参考にしていない、訳文の質が全体によくはない
- ・ 納期が厳しい時に、十分にエディターがチェックしていないと思われるケアレスなミスが頻出
- ・ 翻訳に際する指示の不遵守
- ・ ファイルが不足している/不要なファイルが含まれている、Trados タグエラーが発生する、など
- ・ 顧客指定の用語、フォーマットに沿っていない、ケアレスミスの見落とし等
- ・ ファイルが開かないなどの致命的なもの(アプリケーションのバージョン違いなどによる)は、即時、データの作り直しをしてもらっている
- ・ 弊社でチェックをしているはずなのに、納品物に、一目瞭然の単純ミスがあり、チェック体制がどうなっているのかと質問される

<受発注間の認識のずれに起因するトラブルやクレーム>

- ・ 訳し方での考え方の違い
- ・ クライアントの方の思い込み(語感など)
- ・ 訳文がクライアントの好みではないという曖昧なクレームが主。
- ・ 思っていた訳文と異なる(自分が意図していた内容と異なる)など
- ・ 発注元の無茶な認識を当方に転嫁させられる(納期、品質)。
- ・ 翻訳成果物に大きな問題はなく、お客様の主眼(見方や読み方)による一方的なクレーム
- ・ 求める品質レベルと予算の相違
- ・ クライアントの要求について聞き取り不足が原因のクレームが多い
- ・ 客先と翻訳仕様の話合いが不十分な状況で客先の想定外の訳文となった。
- ・ クライアントの要望を正確に把握・理解できず、翻訳会社側の一方的な妄想と独断による結果物の相違
- ・ 原文から離れて訳文のみを評価しようとし、翻訳以上の成果を求める

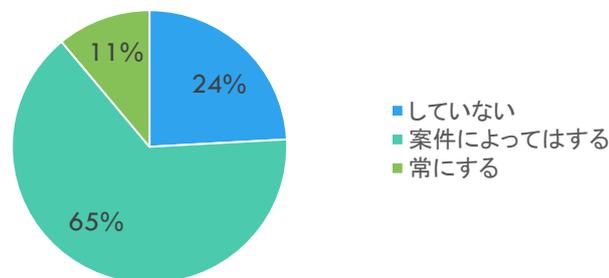
- ・ クライアントの希望するレベル vs 翻訳会社が提供しようとしているレベルに関する事前の認識合わせが十分でなかったと思われるケースがほとんど

<その他>

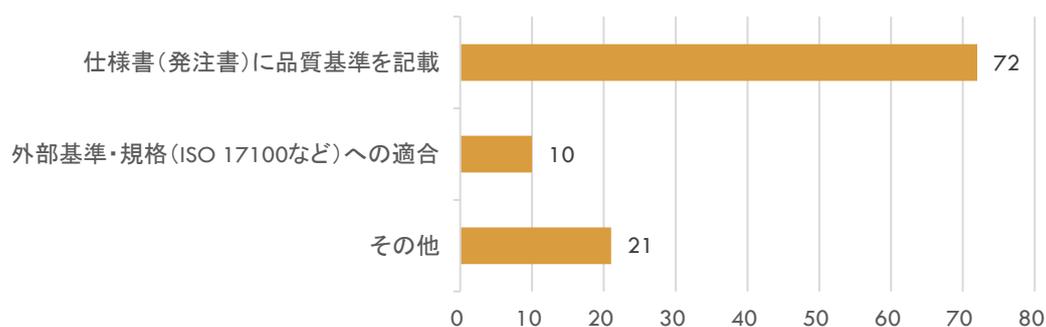
- ・ 誤解を招く注意文の記載など
- ・ ネイティブでない方が間違った修正を入れたがる
- ・ 1~2箇所程度の用語修正からライトレベルのクレームまで。ほとんどは、軽微な用語・表現の修正が多い(平均作業時間 1~2hレベル)
- ・ お客様が指定の用語集などが無い場合に、「不適切な用語が使用されている」という指摘を受ける
- ・ どうしてこの訳になったのかを尋ねても、「ネイティブが言っていますから」の一言で済まされると納得がいかない
- ・ 上記質問が日本語のみ対象であれば、弊社側の指摘をベンダー様には理解していただいていると思うが、中国語とフランス語では、弊社側の担当者とベンダー様との間で噛み合わないことがあり、どう仲裁するか悩ましい
- ・ トライアルでよい品質でも、実際の納品では「てにをは」がおかしいレベルで納品される
- ・ 用途を明確にしないまま翻訳を発注された場合、トラブルになる場合がある
- ・ 顧客側の日本人担当者が原稿との整合性を優先する傾向にあるため、事前に摺合せがないまま、ネイティブ翻訳者がナチュラルな翻訳になるように表現を簡略化したり、逆に補足を加えたりすると、トラブルになる場合がある

◆品質に関する合意形成

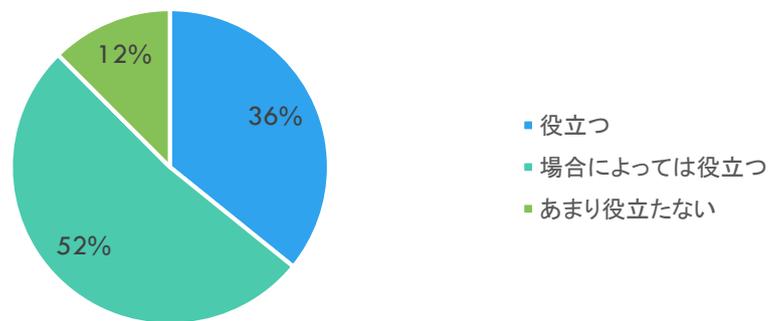
27. 事前にクライアントと翻訳会社との間で品質基準について何らかの合意をしていますか。



28. 質問 27 で「案件によってはする」または「常にする」の場合、どのような内容ですか(複数選択可)。



29. 業界共通の品質評価ガイドラインがあると、翻訳会社とクライアント間で品質に関する合意形成に役立つと思いますか。



30. 質問 29 の理由についても併せて教えてください。

<役立つ>

- ・ どの翻訳会社も「品質管理を行っている」と謳っているがその内容はクライアントには見えない。翻訳会社で品質管理を行っているにもかかわらず、納品物の品質に満足できないことが多い。
- ・ 成果物によっては、ローカライズで重要な要素であっても、仕様書に記載されていない、または仕様書自体が曖昧な理由で、品質評価の対象にならないことがあるため。
- ・ どう評価したらいいのかわからない。
- ・ 業界共通ガイドラインをたたき台にすることが出来るため、品質評価合意及び運用がより効率的になる。
- ・ 現在他社がどのような基準のもとに翻訳会社を評価しているかの情報が無いため、自分たちの基準が妥当なのかを知る機会がない。翻訳会社の品質が思うようにあがらない時に、自分たちの評価が厳しすぎるのかどうかを比較する基準があると便利。
- ・ 流畅性を数値化するのに苦戦しているので、ガイドラインがあると助かります。
- ・ 顧客と認識を共有する際のたたき台として使えそうだから。
- ・ 合意形成しやすいから。
- ・ 顧客と翻訳会社とで品質基準のすり合わせが十分にできていなかったことによるクレームが見受けられるため
- ・ クライアントからの品質に対する信頼性向上に役立つと思われる。
- ・ クライアントが複数社を比較する際に役立つ。
- ・ 翻訳のことをあまりご存じでないお客さんにも業界の標準品質として提示できるため。
- ・ 「翻訳品質」について、現在基準を明確にできていない部分が少なくなく、レビュワーの個人見解も一律でない。
- ・ 翻訳を請け負う側は、限られた予算の中でどこまでの品質レベルを求めるかを事前に取り決めて、その範囲内で翻訳をする。また、技術文書の場合には、お客様と翻訳会社の役割分担を明確にして、それぞれの観点で翻訳・レビューを行うという考え方が必要。だがお客様によっては、合意形成が困難な場合がある。品質評価に関する業界標準のガイドラインを作成することでトラブルを減らせる可能性はあるが、内容によっては、自分たちの首を絞めるようなことにならないかという心配もある。
- ・ 個別に考えなくてもよい。
- ・ 「会社ごとの基準」よりも「業界標準」の方がお客様も納得して受け入れていただけるのでは
- ・ 主観的な意見を防ぐため。
- ・ こちらから「品質とは何か？」を提示でき、事前合意もスムーズにいくのではないと思う。
- ・ 共通の基準ができるから。

- ・ 翻訳の品質は人それぞれ。明文化、明確化できれば、プロジェクト開始前に目指す品質について顧客、翻訳会社、翻訳者の間で合意することができ、無用なトラブルを避けることができると期待します。
- ・ 業界基準があると社内でも標準化しやすいため。
- ・ 納期やコストの最適化が可能になる。案件の難易度と翻訳者のスキルのミスマッチを防ぐことができる。翻訳者の現時点でのスキルや上昇カーブを可視化できる。

<場合によっては役立つ>

- ・ その案件に特化した内容ではなく、全ての依頼内容に適用されるようなルールに関しては、慣習法のようになってしまうっており、担当者が変更した場合、そのレベル合わせに苦労しているため。
- ・ 発注側には翻訳を適正に評価できる人材が必ずしも多くない。お互いに納得いく体制が不可欠。発注側が評価を社内の適切な人物にさせているかどうかが一番重要。それが翻訳者そして翻訳業界の存在価値を高める。
- ・ すべての評価を数値化することは難しいと感じているが、一定の評価基準を設けることで人事評価などの客観的な裏付け資料になり得る。
- ・ 分野により評価のばらつきがあるため。
- ・ 品質の面で使い物にならない翻訳者を淘汰する目的など、一定の目安としては役立つと思う。だが、細かすぎると訳文への影響が大きすぎて実用的ではない。
- ・ 品質評価ガイドラインは分野によって異なるので、おしなべて役立つとは思えない。
- ・ 何らかのガイドラインがあることで基軸になるため。
- ・ 100パーセントマッチの扱い方など、日本語ユニークな問題について明文化して世界に発信していくことが大事。そうしなければ、品質を守ろうとする日本人翻訳者やベンダー日本語担当者様の負担が減らない。
- ・ 翻訳の内容によってはガイドラインに合致しない場合もある。
- ・ 翻訳は品質基準が極めてあいまいなため、公認のスタンダードのようなものがあれば、それと照らし合わせたり比較したりした品質の定量化がある程度できるのではないかと思う。
- ・ 品質の価値観、つまり訳文の品質の優先度をどこに高く置くかが、案件により違う。またガイドラインができた場合、全ての項目を満たすことがベストという風潮が強くなるのが予想される。実際の翻訳は納期、コスト、品質のバランスで成り立っているため、その点が懸念される。
- ・ 翻訳の元原稿の不備を無くしたいから。
- ・ 翻訳の依頼先が変更となっても同じ基準で品質について合意できるため。
- ・ 客先との合意は今のところ求められていないが、ガイドラインがあると便利。
- ・ 客観的な判断基準として機能すると思われるから。
- ・ 最後はクライアントの評価に依存すると思うが、顧客の要望と価格のバランスをすり合わせるために、業界の最低限の基準が公開されている必要はあると思う。
- ・ 目安となりうるものが存在すれば、多少なりとも評価基準の助けにはなる。
- ・ 結局は毎回見ていられない。
- ・ 業界の共通の基準では、必要最低限のレベルしか定義ができないか、カバレッジを広げる代償としてあいまいな表現になってしまうことが多いため、クライアントによっては不十分なケースが出てくる。共通のガイドラインのほかに顧客別のガイドラインが必ず必要になる。
- ・ 発注者が納品物に対する品質の予備知識が得られる。
- ・ 業界のガイドライン提示～合意は、翻訳の知識が少ないもしくは多忙なクライアントにとっては、煩雑になると思われる。
- ・ 案件の内容・分野、クライアント、提供サービス(対応内容や想定品質レベル等)などによって、求められるものになり異なる。同一の評価ガイドラインがあらゆる案件に適用できるとは限らない。クレームの低減に寄与するのではという期待はある。
- ・ 納品後のトラブルの解決。
- ・ クライアント、発注者自身が翻訳品質について理解していないケースがよくあるため。

- ・ 品質には主観的な基準がどうしても入るので、ガイドラインを作るのは正直難しいと思いますが、あると指針にはなっていて良いと思います。
- ・ ある程度の目安として使用できると思うが、そのまま受け入れてくれるクライアントは少ないように思う。
- ・ 多言語を扱っているので、評価基準がグローバルで使用できるものかどうか、言語ごとにマッチしたものが作れるのかが、よくわからない。
- ・ クライアント側の訳文の好みによるトラブルを防ぐことができる。
- ・ 翻訳という作業の範囲を定義できる。
- ・ 受注形式(従来の翻訳会社のような個別受発注体制なのか、オンラインによる受注でコーディネーターを介さない受付体制なのかなど)によって、求められる品質が異なるため。
- ・ 翻訳品質が可視化され、品質を重視している翻訳会社への評価につながるため。
- ・ たとえば日英であれば、統一の品質評価ガイドラインに沿っていますという、いわゆる免罪符があればトラブル時には役に立つと思われる。ただし希少言語に関しては言語のシステム、文化、宗教事情等が大きく異なるため統一のガイドライン作成は困難と推測する。
- ・ 拠り所を作ることで品質に関する温度差は無くせるが、あまりに詳細まで定め、縛られることで、生産性、創造性が損なわれる懸念があるため。
- ・ 翻訳者のレベルを高いレベルで均一化できる可能性があるため。
- ・ ガイドラインとしてまとまっていることは意味があるが、その手法のほうが重要。
- ・ 必要がなかったためよくわからない。

<あまり役立たない>

- ・ クライアント側に、翻訳業界の基準を採用しようという気風がない。
- ・ クライアントに理解してもらえるかどうかによる。
- ・ 特許の場合は役立たない。
- ・ 顧客が「業界共通」のものをそれほど重視するとは思えない。
- ・ 誰でも実施できる評価内容と評価方法が存在するのであれば、ガイドラインは場合によってはビジネスの合意事項として機能させられる。結局、翻訳会社側の自己満足的な運用に陥る危険性を感じる。
- ・ クライアントによって翻訳要件や要求が異なるので、業界が決めたガイドラインが必ずしもクライアントの要件と合致しない。
- ・ すでに顧客(特許事務所)とは個別に基準を定めている。弊社の経験から、顧客ごとにこだわりのポイントが違うので、共通の指針は必要ないと思われる。顧客が品質基準をもっていない場合には、業界標準のガイドラインが役立つかも知れないが、弊社は独自のガイドラインを提案しているので、今のところ必要性を感じない。
- ・ 翻訳会社に望まれる品質レベルはクライアントによって大きく異なるため、翻訳業界共通という認識は通用しないと感じる。
- ・ 翻訳の場合、発注者と受注者側の信頼関係が品質にも大きく影響されることがあり、案件毎に形式が変わるため「業界共通」というのは必要ないのではないかと。
- ・ 業界共通のガイドラインを誰が作るかによって、価値が決まる。
- ・ そもそも品質に関する合意形成、品質評価ガイドラインが何かわからない。
- ・ ポイントとなる点のほとんどが、ミスではなく数値化できない表現やお好みなどのご要望のため。

31. もし業界共通の品質評価ガイドラインができる場合、どのような項目が盛り込まれるべきだと思いますか。

<品質の定義や基準に関する項目>

- ・ 「品質とは何か?」という明確な定義

- ・ 評価基準、エラー率(許容範囲)
- ・ 原文の品質
- ・ 原文への理解度
- ・ 訳抜け、誤字脱字・誤変換、誤訳、文法・句読点、数値・記号・単位、固有名詞、レイアウト、用語集・参考資料の反映、スタイルガイドの遵守、原文を正しく理解しているか、専門用語の使い方が適切か、訳文が文書の目的・用途に合っているか
- ・ 訳語選択の正確性、訳文としての正確性
- ・ ユーザービリティ、リーダビリティ、コンプライアンス
- ・ 物理的判断のできない翻訳の質(流暢さ、明瞭さ)を客観的・数値的に表現できる項目
- ・ 英文としての自然さに関する項目
- ・ 逐語訳と意識の定義(および例文)
- ・ 納品物としての品質を示すレベルの定義
- ・ 文体が希望に沿っているか(体言止めか、命令形か受動態かなど)
- ・ 品質評価ガイドラインを適用するためのガイドライン(プロジェクト開始直後で品質が安定していないにもかかわらず統計的手法を適用してその結果を云々するといった、ガイドラインの独り歩きや濫用を防ぐため)

<作業手順に関する項目>

- ・ 語句の統一性、指定ガイドラインの順守、納期、窓口の対応
- ・ 適切な形で申し送りやコメントが添付されているか
- ・ 評価項目の測定方法
- ・ 評価項目を達成するための翻訳者、校閲者へのガイド
- ・ 訳者がわからないことが出てきたときに対する対応
- ・ 「基準」「ツール」「手法」「フィードバック」などの用語の定義
- ・ QA ツールで実施できるような項目
- ・ スペルチェック実施の有無、アプリケーションの種類/バージョンの報告
- ・ 英語ライティングのスタイルガイド

<その他>

- ・ 品質評価方法、評価結果、品質評価の効果の具体例
- ・ 全体的な(感覚的)印象を評価できる項目があっても良い
- ・ DTP/CAT/MT/TMS 処理との親和性を担保できる項目
- ・ ISO の要求事項に準拠した項目
- ・ ローカライズの有無(原文のままの物と翻訳する物の区別)をある程度決めたルール
- ・ 同じ原文や用語に対して同じ訳をつけることを推奨しつつもそれが不適切だとされる具体的なケース
- ・ 100%マッチ箇所のアップデートが適切かどうかの判断基準
- ・ 翻訳対象やユーザーの種類によって翻訳品質の基準が違うため、対象別の評価ガイドラインが必要
- ・ 翻訳会社に発注すると、どのようなメンバー構成でプロジェクトに取り組んでいるか見えにくいので、担当ごとに評価を行うことにより効果的なフィードバックができるのではないかと考えるにいたっている
- ・ 外来語の表記の扱い
- ・ 印刷物、Web 上で掲載されるものなど、用途により異なる基準
- ・ 言語ごとの詳細、多言語展開する場合の詳細
- ・ 品質のランク別一般価格
- ・ 客観的で数値化できる基準
- ・ 翻訳依頼者の原稿作成上の注意点
- ・ 非常にベーシックな項目に限定されるのではないかと

- ・ 全当事者(クライアント、翻訳会社、翻訳者)の意見が反映されるべきなので、個別具体的な項目を上げるのは難しい
- ・ 品質を形成するのは、翻訳者(社)側の能力の他に、クライアントが提供する原文の品質、ガイドライン・用語集・参考資料の有無という点
- ・ 仕様書(発注書)で品質基準を定義していないお客様が多い
- ・ 画一的な評価基準ではなく、予算や案件によってあらかじめ合意した品質基準に沿っているかという観点で評価が行われるべき
- ・ 原文の質に依存し、安易に数値化できない作業のため、評価を基準化することにはあまり意味がなく、。顧客・翻訳会社の双方がガイドライン文言の「言葉のマジック」をかざす理不尽な主張をする可能性があるため、「業界共通」のガイドライン設定には非常に否定的
- ・ 業界、文書の種類ごとに項目は異なるべき(ITならITの共通ガイドライン、医療なら医療の共通ガイドラインが必要)
- ・ 出来る限り具体的な例を盛り込むことが重要

◆その他

32. その他、ご意見やご感想があればお聞かせください。

- ・ クライアントの好みに適合しているかを数値化することは難しい。
- ・ クライアントの特に経営レベルの人に、ドキュメンテーションの大切さが浸透するといいですね。
- ・ 品質は価格・納期とのトレードオフの部分も大きいのでスポンサー側も案件毎に何を重視するのかよく考える必要がある。
- ・ 品質は二の次で安ければそれでよい、という企業が増えている印象はあるので、安かろう悪かろうの事例を業界として積極的にアピールしていただけるとありがたいです。
- ・ 日本語だけ別基準にするのは難しい時代です。ならば、まずは我々の思う品質評価基準を作って英訳し、世界に発信していきたいです。

本設問には、上記のほかに 16 件の回答がありました(アンケート回答者にのみ全データを開示します)